

校長室から

令和3年1月26日

「あの時のような日々には・・・」

令和3年が始まって、すでに20日以上が過ぎました。新型コロナウイルスの感染は、依然として収束に向かっているとは言えません。宮城県そして私たちの生活する仙台市でも、毎日二桁の数の感染者の報道がなされ、各地でクラスターも発生しています。県内だけではなく、全国の学校においても感染者の発生が増えています。「医療の逼迫」「保健所業務の過多」そして「様々な要請の拡大」等も毎日報道され、私たちの生活への制約がさらに大きくなっています。

学校では、自治体から ○しっかりとした検温体制の確立 ○教育活動で注意すべき点 ○部活動の対外試合の自粛等が指示されました。今年に入って、全国スキー、スケート選手権の中止を始めとして、様々な大会や催し物が中止・延期となっています。現在の3年生も中総体やコンクール等の中止、学校行事の見直し等で大きな痛手を被りましたが、それと同様かそれ以上の波がまた学校生活にも押し寄せています。

振り返ってみると昨年2月27日(木)、当時の首相より「一斉休校」が宣言されました。午後7時頃だったのでしょうか。私たちも職員室内で知るに至りました。本校の職員が「校長先生、3月2日(月)から休校になるのであれば、予餞会が・・・、3年生が可哀想です・・・」と次々に報告してくれたのがつい先日のようです。職員の中から「このままでは予餞会が実施できなくなる」と、声上がり、急遽、リハーサルなしでのぶっつけ本番での予餞会を2月28日(金)に実施することを決定しました。27日の夜は、生徒会担当の先生方を中心に予餞会のタイムテーブルを作り直し、どの程度の内容ができるかを確認しながら、各家庭に午後9時前に「明日、急遽、予餞会実施の可能性があります。」との緊急メールを発出しました。2月27日の当日は、午後2時過ぎに、部活動の注意点に関する緊急メールも発出していて、新型コロナウイルスの脅威がじわじわと身近に迫っていた時でした。しかしながら「一斉休校」に関しては、正直驚きました。

生徒たちは、春休みまでの休校を知り、2月28日の放課後、校庭に出て、名残惜しそうに時を過ごしていました。当時の3年生は、先生方に「予餞会を実施してくれてありがとうございます。」とあいさつし、「卒業式どうなるのですか。」と不安そうにしていた姿が耳と目に焼き付いて離れません。この間、暗い報道ばかりが続きました。「自粛警察」「マスク警察」「他県ナンバー狩り」そして、あろうことか医療従事者の方々に対する差別や誹謗中傷まで・・・。

「不要不急」という言葉もいつのまにか、社会に浸透しました。「私の仕事は不要か」「私のやっている事は急を要さないのではないか」と悩んだ方々も数多くいました。例えば、芸術や文化を仕事にしている方は「自分の仕事は今、必要とされていないのかも」と悩んだり、アスリートの方々は「今のこの状況で自分だけがスポーツなんて・・・」と深く考え込んだり・・・。しかし社会には多様なニーズがあり、それを引き受けながら働いている方々が数多くいます。「不要不急」のスローガンは、そのような多様なニーズを一刀両断にして引き裂いてしまいました。私たちには、多様に集う場所があり、多様な営みがあり、多様な居場所があり、一見不必要であるような事もあり、そして多様な仕事があって、心や身体のバランスを保っていると思うのです。それが忘れ去られていくようでとても恐ろしさを感じます。

しかし、このような日々でも、生徒たちがいて、明るくあいさつしてくれて、1日が始まり、そして無事に終わっていくことに、これからも感謝しながら生活したいと思います。あの時のような3ヶ月も無人の学校はうんざりです。人の心を蝕む日々の終息を心から願いたいと思います。